

産学官連携深化ワーキンググループ (第3回)

経費の「見える化」と管理業務
名古屋大学の取組

平成28年11月2日

名古屋大学理事・副総長 木村 彰吾

NAGOYA UNIVERSITY

共同研究の経費の見える化に向けて (第1回報告のサマリー)

1. 費用の集計(実績)
 - 共同研究1件を集計単位
 - 共同研究の遂行に合理的な関係を持つ費用を集計
 - 直接的な因果関係、あるいは努力と成果の対応関係
 - 間接的な因果関係

2. 費用の分析(見える化)
 - 何にお金を使っているか？
 - 何のためにお金を使っているか？
 - ムダがあるのか、足りていないのか？

3. あるべき経費を算定

経費の「見える化」からの展開（1）

1. 原価計算

2. コスト・マネジメント(原価管理)

- 原価が計算できたら、原価の管理へ
- 「成果」、「アウトプット」、「活動」に必要なコスト(=あるべきコスト水準)を把握し、必要な経営資源を投入する
- 現在の活動を遂行するのに、ムダを省き、コストを下げる
- 下げたコストの増加を抑制する

3. 戦略的産学連携経費の活用

経費の「見える化」からの展開（２）

— 持続的な産学連携のために —

1. 学内調査
 - 部局等単位でのポテンシャルマップ作成
 - 教員のマインド、意向、業務分析（管理業務）
 - 実行段階での課題抽出（予想）
 - 部局等との役割分担等
2. 「成果」、「アウトプット」、「活動」の定義と測定
3. 大学における産学連携の位置付け



経費の見える化に加えて非財務情報の活用が必要になり、**管理会計を組込んだIR**を整備

IR: 教育・研究・財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究活動で、その結果を活かして大学活動の効率性や有効性の向上を図る

《効果》

- 教育研究活動のコスト把握により、本格的産学連携等のさらなる加速化
- 産学連携収入をはじめとする多様な財源の確保を促進し、財務基盤を強化
- 資源活用の効率化、再配分のための大学経営陣の意志決定が可能